

昭和二〇年八月一四日夜「ポツダム宣言受諾に関する詔書」が発せられ、同夜一時二〇分頃録音のうえ、翌一五日正午終戦詔書の録音放送がおこなわれた。この放送は空電が多くて聞きとりにくかったが、お言葉はよく聞きわけることができた。

帝国臣民ニシテ戦陣ニ死シ、職域ニ殉シ非命ニ斃レタル者及其ノ遺族ニ想ヲ致セハ五内為ニ裂ク且戦傷ヲ負ヒ災禍ヲ蒙リ家業ヲ失ヒタル者ノ厚生ニ至リテハ朕ノ深ク軫念スル所ナリ惟フニ今後帝国ノ受クヘキ苦難

第五節 終 戦  
一 終戦と国民

|     |      |         |             |          |     |   |     |     |     |     |     |                         |
|-----|------|---------|-------------|----------|-----|---|-----|-----|-----|-----|-----|-------------------------|
| (水) | 8・15 | 午前      | B 29        | 二        | 飛   | 米 |     |     |     |     |     | 神戸市阪神間                  |
|     | 晴    | 9・50頃   |             |          |     |   |     |     |     |     |     |                         |
| (火) | 8・14 | 午前      | B 艦 B 艦 B 艦 | 29 29 29 | 上   | 機 | 一   | 二   | 一   | 一   | 一   | 神戸市東部<br>武庫郡御影町、魚崎町、住吉村 |
|     | 晴    | 午後9・50頃 |             |          |     |   |     |     |     |     |     |                         |
|     |      |         |             |          | 焼夷弾 |   | ( ) | ( ) | ( ) | ( ) | ( ) |                         |
|     |      |         |             |          |     |   | ( ) | ( ) | ( ) | ( ) | ( ) |                         |
|     |      |         |             |          |     |   | ( ) | ( ) | ( ) | ( ) | ( ) |                         |
|     |      |         |             |          |     |   | ( ) | ( ) | ( ) | ( ) | ( ) |                         |
|     |      |         |             |          |     |   | ( ) | ( ) | ( ) | ( ) | ( ) |                         |

備考・戦争関係の記録や資料は戦災または終戦非常措置によって焼失してなく、残存資料にはかれこれ、一致しない点が多く、今日、当時の実情を明確に知ることには困難であり、従って逸話も多いことと思う。

八固ヨリ尋常ニアラス爾臣民ノ衷情モ朕善ク之ヲ知ル然レトモ朕ハ時運ノ趨ク所堪ヘ難キヲ堪ヘ忍ヒ難キヲ忍ヒ以テ万世ノ為ニ太平ヲ開カムト欲ス

と訴えられるお言葉は、国民の胸を強く打ち、深い感動とかなしみをもって黙々と聴き入ったのだった。

## 二 終戦の日の市民の表情

この日の神戸市民の表情はどうだったか。新聞には次のように報じられている。

敵軍のうちに歴史的な大放送がしずかに巷を流れる。神戸戦災地では馬車もトラックも人もハタととまって声なく、脱帽して地に伏し、両の瞳には大つぶの涙が滂沱として大地をぬらす。県立航空工業学校在校生徒は教師に引率されて、某部隊のラジオの前に整列し、かつて前例のない重大放送に聴き入りながら、赤手を深くふかく思召す聖慮を拝察して慟哭の涙をのむのだった。放送が終っても列をはなれるものは一人もなく、いつまでもたちつくして去るものもなかった。(神戸新聞20・8・16)

市長、市民に告諭 この日、神戸市役所では正午を期して中井市長以下全庁員が本庁中庭に集合、ラジオの拡声機から流れ出る陛下のお声に頭をたれる。「朕ハ常ニ汝人民ト共ニアリ」との詔に接するや、一そう深く頭をたれたのであった。

放送が終って、中井市長は庁員に対し「自分は死ぬつもりで市長の重任をおうけしたのであったが、ただいまの大詔を拝聴して決意を変えた。あくまで大御心を体し、七生報国の大決心をもって、今後とも市政遂行に

挺身する。諸君もどうか私と行動をとともにされたい」との訓示をし、つづいて午後一時半より全庁員とともに淡川神社に参拝し、七生報国の堅い決意を報告、ただちに神戸市民に告諭した。

大詔は下りました。赤子我等をあわれみ大和民族百年の将来を念ひ給ひて悲しき聖断は遂に下りました。我等は謹みて従ひ奉るのみであります。

市民諸君 我等の大御親、皇基はゆるがず、神州は不滅 今こそ日本人の名のもとに互に堅く手をつなぎ、一糸乱れず苦難の道を進むことこそ大御心にそひ奉る所以と信じます。

市民諸君神戸市は大楠公忠霊の鎮まるところ、此地こそ、新日本の光でなければなりません。願くば更に立ち上り、戦災者、出征死傷の軍人並にその家族に対して深き同情をそそぐと共に、皇国復興、港都再建のため一致結束、全力を尽されんことを切望致します。

この告諭は四千枚を印刷し、知事告諭とともに町内会を通じて、全市隣保に配布し、また、辻々に貼り出して市民の動搖をいませめた。

資料の焼却 戦争終るや、全国の官公署は憲兵隊から「今次戦争に関する重要書類およびこれに関するもの」を速かに処分するやうにという命令をうけた（その指令先・日付は今日明らかでない）。突然のことで理由はわからなかったが、官公署・軍関係の施設では保存書類・写真・図面などを選び出し、庁庭において監視下にこれらを焼却、その炎は夜空を照していた。

市においてもこの命令によって、関係書類・資料を焼却するという非常措置をとった。軍事援護課には、動

員・援護に関するいろいろの基本資料が保存されており、特に召集令状の動員台帳、壮丁名簿があったが、連隊区司令部からこれら台帳の焼却命令があったので焼却に付した。

三 神戸市の空襲被害

県下の被害 第八八臨時議会に提出された「終戦経過報告書」によると兵庫県下の被害状況のとおりでである。

- 死者 一万〇、四〇四人 (全国第六位)
- 負傷者 二万〇、三二五人 (全国第五位)
- 建物の全焼壊 一六万〇、三五四戸 (全国第四位)
- 同半焼壊 一万〇、五七五戸 (全国第四位)
- 罹災者 五一万二、八七五人 (全国第四位)

県下の戦災地 終戦後指定された戦災地は東京都各区のほか各府県にわたって一一九市であるが、このうち兵庫県下では、神戸・西宮・明石・尼崎・芦屋・姫路・鳴尾・本山・本庄・魚崎・御影・住吉・飾磨の一三市町村が戦災地に指定

第15表 県下六市の戦災被害表

兵庫県土木部計画課調

|     | 罹災面積                        | 罹災者     | 死者    | 負傷者    | 建 物     |       |
|-----|-----------------------------|---------|-------|--------|---------|-------|
|     |                             |         |       |        | 全焼・全壊   | 半焼・半壊 |
|     | 坪                           | 人       | 人     | 人      | 戸       | 戸     |
| 神戸市 | 5,100,000<br>a) (5,900,000) | 470,820 | 6,235 | 15,331 | 125,205 | 2,974 |
| 姫路市 | 877,000                     | 57,466  | 519   | 516    | 12,464  | 140   |
| 尼崎市 | 160,000                     | 13,282  | 479   | 709    | 12,319  | 479   |
| 明石市 | 1,215,000                   | 49,356  | 1,464 | 1,331  | 10,968  | 3,986 |
| 西宮市 | 2,253,000                   | 67,867  | 716   | 1,301  | 14,528  | 997   |
| 芦屋市 | 559,000                     | 18,171  | 145   | 170    | 2,850   | 204   |

資料：兵庫県統計書・昭和25年度

a) カッコ内は神戸市空襲被害状況、戦災復興誌（神戸市）に所掲のもの

され、これに対して戦災復興事業が開始されるにいたったが、太平洋戦争が神戸市に残した爪あとはあまりにも大きく決定的であった。太平洋戦争に突入してから終戦までの四年間は、神戸にとって、もつとも厳しい歳月であり、終戦直後の廃墟さながらの惨状は、輝やかしい発展の一路を歩む現在の神戸の姿からは全く想像することはできない。短時日によくもかく復興したものと驚嘆の眼をみはるほかない。

### 1 一般被害

神戸市は、昭和一七年の第一次空襲から終戦前日の御影地区の空襲まで、大小一〇〇回以上におよぶ空襲によって多くの尊い人命と財宝を失い、建物、主要産業、港湾施設などほとんどが戦火にかかって壊滅的打撃を受けた。

**人的被害** 空襲による罹災者総数は五三万二、六九四人（旧市内四七万〇、八二〇人、<sup>(在)</sup>新市内六万〇、八七四人）、死者七、五二四人（旧市内六、二三五人、新市内一、二八九人）、重軽傷者一万六、九四八人（宋庄村の軽傷者数を欠く）、罹災戸数一四万二、五八六戸（旧市内二万八、一八二戸、新市内一万四、四〇五戸）に達した。

三月一七日までの空襲は局部的で全市的に見て大した被害ではなかったが、三月一七日の夜間大空襲は神戸の西半分を焼いて二二万六、一〇六人の罹災者を出し、五月一日には一トン爆弾をもって川西航空機甲南製作所の大空襲があり、東部五カ町村・灘区にも二万五、二七三人（旧市内九、五三三人、東部五カ町村一万五、七四〇人）の罹災者を出し、六月五日の神戸市東部の大爆撃で旧市内で二二万三、〇三二人（東部五カ町村の罹災者数を

第16表 神戸市の空襲被害

| 地域別      | 総面積       | 総戸数                     | 総人口     | 人的被害    |                   |       |
|----------|-----------|-------------------------|---------|---------|-------------------|-------|
|          |           |                         |         | 総数      | 死者                |       |
| 神戸市      | (旧市内) 神戸市 | 9,820,000 <sup>a)</sup> | 209,220 | 918,032 | 21,578            | 6,235 |
|          | 本庄村       | 577,530                 | 3,200   | 18,625  | 661               | 436   |
|          | 東武本山村     | 4,173,000               | 4,288   | 17,846  | 292 <sup>c)</sup> | 161   |
|          | 灘区 魚崎町    | 445,000                 | 3,006   | 12,000  | 344               | 108   |
|          | 住吉村       | 2,374,780               | 3,465   | 19,289  | 570               | 59    |
|          | 区郡 御影町    | 928,650                 | 5,941   | 25,473  | 858               | 442   |
|          | 兵庫区 山田村   | 29,855,040              | 2,651   | 15,230  | —                 | —     |
|          | 垂水区 玉津村   | 2,627,273 <sup>d)</sup> | 1,713   | 8,478   | 158               | 77    |
| 水石区 伊川谷村 | 9,362,375 | 910                     | 5,200   | 11      | 6                 |       |

| 地域別 | 人的被害  |       | 物的被害                    |         |         |
|-----|-------|-------|-------------------------|---------|---------|
|     | 重傷者   | 軽傷者   | 罹災面積                    | 罹災戸数    | 罹災者数    |
| 神戸市 | 7,007 | 8,336 | 5,900,000 <sup>b)</sup> | 128,181 | 470,820 |
|     | 225   | (欠)   | 280,000                 | 2,396   | 15,656  |
|     | 58    | 73    | 272,000                 | 2,526   | 6,714   |
|     | 47    | 189   | 148,000                 | 1,325   | 5,740   |
|     | 511   | —     | 301,000                 | 2,695   | 13,286  |
|     | 416   | —     | 567,000                 | 4,765   | 15,740  |
|     | —     | —     | 61                      | —       | —       |
|     | 81    | —     | 67,500                  | 671     | 3,608   |
| —   | 5     | —     | 27                      | 130     |         |

a) 昭和16年11月現在戸数205,253にその後の建築戸数3,967を加えたる数字

b) については別の数字がある (第18表参照)

c) 行方不明13人を加えたる数字

d) 世帯数

欠く)を出した。(第16表参照)

焼かれた住宅地域

神戸で戦災をまぬがれた住宅地域は、わずかに旧市内の山手東部の住宅地域の一部、

東部五カ町村の住宅地区の一部および旧垂水地区の大部分等にすぎなかった。当時市部における家屋戸数は二

〇万九、二二〇戸で、その六一%にあたる一二万八、一八二戸

を失ったが、この数は東京都・大阪市・名古屋市につぐもの

であった(第17表参照)。東部五カ町村の家屋被害は計一万

三、七〇七戸、西部の玉津・伊川谷において六九八戸であ

る。

罹災面積

市街地のうち妙法寺・白川・多井畑・垂水

等を含まない平坦部の面積は九八二万坪で、このうち戦災跡

地面積は六一%にあたる五九〇万坪(妙法寺を含む)であった。東部五カ町村も省線以南の広域が戦災にかか

り、旧市内同様その様相はいちじるしく変わり、罹災面積計一五万八、〇〇〇坪、山田村六一坪、玉津・伊川

谷村計六万七、五〇〇坪であった。

(註) この人的被害・物的被害については第18表のような別の数字があるが、本書は「神戸市空襲被害状況」によつた

(経済安定本部発表のものもこの数字である)。

第18表はまた神戸市の罹災戸数がいささか多きに失するかと思われる点もあるが、念のため別の数字も載せておく。

第17表 五大都市の被害数

|      |                       |
|------|-----------------------|
| 東京都  | 695,277 <sup>1)</sup> |
| 大阪市  | 328,237               |
| 名古屋市 | 136,558               |
| 横浜市  | 100,091               |
| 神戸市  | 128,181               |
|      | (142,586)             |

昭和24年4月6日経済安定本部発表

カッコ内は武庫郡本庄、本山、魚崎、御影、住吉の五カ町村(現・東灘区)および、明石郡玉津、伊川谷二カ村(現・垂水区)の被害戸数を筆者が加えた数字である。

第18表 神戸市被害状況

| 物的被害    |        |        |         |
|---------|--------|--------|---------|
| 全焼      | 半焼     | 全壊     | 半壊      |
| 189,601 | 2,164  | 3,135  | 3,725   |
| 人的被害    |        |        |         |
| 死者      | 重傷     | 軽傷     | 罹災者     |
| 9,247   | 12,061 | 12,175 | 484,424 |

資料：昭和20年神戸市事務報告書

空襲と人口の推移 本市の人口は空襲をはきんで急激に人口の変動を見せ、戦前の最高の人口から約三分の一に近い三七万台に激減し、五大市中大阪市について人口の減少は大きく、戦後も食糧事情・住宅事情・都市の転入制限などで人口の増加は頭打ちとなり、昭和三〇年にいたって、ようやく昭和一五年の人口をわずかに上まわる人口となった。

一五年の国勢調査によると、神戸市の世帯数および人口は、世帯数二二万六、〇七六、人口九六万七、二三四人であったが、太平洋戦争がはじまって多くの出征者を出し、人員疎開などがおこな

われ、反面軍需産業への勤労動員などもあり、一九年二月二二日の人口調査によると、世帯数二二万五六五、人口九二万八、〇三三人で、世帯数はふえているが人口は減っている。さらに二〇年三月一七日の大空襲で死者二、六三五人を出し、疎開者が急にふえた。四月一日現在の戸数および人口は兵庫県食糧営団の調べたものによると、戸数二二万八、八九二、人口五万五、九九四人と大きく減っているのが目につくが、空襲の激化と人員疎開の強化によってさらに減って、終戦後の一月一日現在の調査によると、世帯数一〇万三、三五一、人口三七万八、五九二人と三八万を割った（第19表参照）。これはちやうど明治四一年の人口に後退したものであった。この人口減少は神戸市だけの問題でなく、六大都市に共通し、各都市ともその人口は、三分の一



に減少しているのが共通した現象であった。

第19表 戦災と人口の動き

| 当<br>時<br>名<br>区 | 昭和一九年人口調査<br>(一九・二・二三現在) |         | 改<br>正<br>名<br>区 | 兵庫県食糧管理団調査<br>(〇〇・四・一現在) |         | 昭和二〇年人口調査<br>(二〇・一・一) |         |
|------------------|--------------------------|---------|------------------|--------------------------|---------|-----------------------|---------|
|                  | 世<br>帯<br>数              | 人<br>口  |                  | 戸<br>数                   | 人<br>口  | 世<br>帯<br>数           | 人<br>口  |
| 灘                | 三七、六九七                   | 一五二、七二三 | 灘                | 一九、九二五                   | 一一六、六〇七 | 二二、〇五一                | 七〇、六三六  |
| 葦合               | 二七、一七五                   | 一〇七、六一〇 | 葦合               | 一七、〇五七                   | 六四、五九八  | 五、五三三                 | 一七、九一四  |
| 神戸               | 一七、一五五                   | 六七、七三二  |                  |                          |         |                       |         |
| 湊東               | 一四、四六一                   | 五五、一〇六  | 生田               | 一五、三五〇                   | 五七、五四二  | 七、六四四                 | 二七、四一一  |
| 湊                | 一二、五一四                   | 五〇、三〇三  |                  |                          |         |                       |         |
| 兵庫               | 三四、二三九                   | 一三二、七六五 | 兵庫               | 一七、七四五                   | 六七、一二二  | 一九、八〇二                | 七〇、六六四  |
| 林田               | 四九、六八二                   | 二〇九、四四六 | 長田               | 三五、五八五                   | 一四六、六九五 | 三〇、二三六                | 一一二、九九二 |
| 須磨               | 二五、二八六                   | 一〇八、八四六 | 須磨               | 二三、二三〇                   | 一〇一、四三一 | 一一、三〇三                | 四四、八七三  |
| 計                | 二三五、六五六                  | 九一八、〇三二 | 計                | 二二八、八九二                  | 五五三、九九四 | 一〇三、四五二               | 三七八、五九二 |

(註) 本表の第一、三段は神戸市統計書、第二段は兵庫県食糧管理団関係資料により筆者がまとめた。

## 2 公共施設被害

戦災による市諸施設の被害は全部にわたりえないが、その主なるものについて見ると、

**市電** 数次にわたる空襲で大被害をうけたが、特に六月五日の空襲では架線を寸断される大被害をうけ、復旧工事は専らこの架線の復旧にかかっていた（当時の架線は銅の使用禁止で鋼鉄線を代用していた）。車輛二八二輛のうち一四三輛（全焼二二、半焼三）を失い、修理の上稼動車九〇輛をもって運転、八月一日ようやくその五〇％を復旧して終戦を迎えた。

電車付属施設の被害として、布引車庫・須磨車庫・長田車輛工場・運輸事務所などの焼失であった。

**乗合自動車** 空襲被害は軽微であった。

**上水道** 幸い水源に被害はなかったが、加圧ポンプ室四カ所、業務出張所三カ所が焼失し、市内導配

水管二一カ所、給水栓三万二、〇〇〇カ所が被害し、このため配水は罹災前同様一〇〇万石の水が送られていたが、六〇万石まで焼跡に流れてしまうという漏水状態であった。このため水圧が低下して高地域はもちろん低地域への給水も不可能で、漏水の防止が焦眉の急務となり、これに全力をそそぎ、全市焼跡の鉛管切断閉塞・漏水止三万〇、一七五件、路面漏水防止作業八二三件におよび、完全給水にもどるのに一カ年を要した。なお断水地区の全市二二カ所の住宅に対しては一日五台の給水タンク車（一車約一五石）を配車し給水していた。

**港湾施設**

わが国の港湾のうちでもっとも整備されているといわれていた神戸港の諸施設も、三月一七

日・六月五日の両度の空襲によって甚大な被害をうけ、兵庫突堤・中突堤・国産波止場・メリケン波止場の荷揚場の上屋・事務所などを焼失し、起重機などは使用不能となり、被害は新港第一と第六突堤にもおよんだ。また船舶の触雷事故が続発し、港湾の機能は停止状態にあった。

掃 海 触雷による沈没船舶のほか、昭和二〇年九月の台風による衝突事故で沈没したものや、戦時中紀州沖で雷撃をうけ神戸港に曳航緊留していたドイツ船ハーベブランド号（六、三三六トン）の坐礁など三九四隻の大小船舶・はしけが神戸港の水路を妨げていた。終戦後アメリカ軍が上陸予定地大阪湾を避けたのもこの間の事情を物語っている。

戦後アメリカ海軍によって神戸港内の掃海がおこなわれ、ついで大阪湾、瀬戸内海の航路がアメリカ海軍と第二復員局（旧海軍省）↓海上保安庁の手によって、瀬戸内海の完全掃海が終り、二七年一月二日瀬戸内海一貫航路安全宣言式がおこなわれて、八年ぶりに瀬戸内海を直航できることになり、神戸港への船の出入りもようやく繁くなった。

倉庫および貨物被害 昭和二〇年一月から終戦までに、日本倉庫統制会社の蒙った空襲による倉庫被害は約四三万坪、このうち日倉神戸支店の被害坪数七万一、二二一坪、保管貨物被害額一億〇、八九七万円であった。神戸の被害坪数は四五％で、横浜の五四％、名古屋の五七％、大阪の五五％に較べて少なかったのは、倉庫の耐久構造に因るものであった。一七年四月一八日の初空襲では、川崎町の住友倉庫・兵庫米穀組合の落穀倉庫に小被害があつたが、本格的な倉庫被害は二〇年二月四日の空襲から、七月一九日の小野浜三井倉庫の空

第20表 倉庫・上屋、坪数、戦災坪数

|        | 保有坪数    | 戦災坪数   | 率     |
|--------|---------|--------|-------|
| 倉庫     | 101,216 | 38,668 | 38.20 |
| 上屋(私有) | 30,801  | 9,276  | 30.12 |
| (官)    | 32,153  | 7,088  | 22.04 |
| (公)    | 9,448   | 1,553  | 16.44 |
| 計      | 173,618 | 56,585 | 32.59 |

資料：昭和29年2月・神戸経済局調

第21表 日倉被害倉庫坪数・被害貨物金額表

神戸支社分

| 月日   | 被害坪数   |       | 被害貨物価格<br>(単位千円) | 場所               |
|------|--------|-------|------------------|------------------|
|      | 全焼・全潰  | 半焼・半潰 |                  |                  |
| 2. 4 | 640    | —     | 1,772            | 東尻池              |
| 3.17 | 38,545 | —     | 58,498           | 市内一門             |
| 3.19 | 300    | —     | 1,259            | 新港               |
| 5.11 | 324    | —     | 349              | 灘区・御影            |
| 6. 5 | 16,961 | —     | 35,725           | 灘区・葦合区<br>新港・兵庫区 |
| 6.26 | 490    | —     | 2,046            | 明石・東播            |
| 7. 7 | 1,030  | —     | 3,767            | 東播               |
| 7.19 | —      | 2,415 | 1,988            | 小野浜              |
| 8. 6 | 10,516 | —     | 3,566            | 御影・西宮            |
| 計    | 68,806 | 2,415 | 108,970          |                  |

資料：同和八周年日本倉庫業史の一鈔

襲まで大小一〇回以上、このうち三月一七日、六月五日の大空襲による倉庫被害は、兵庫突堤・高浜岸壁・新港第一突堤から第六突堤・南本町・磯辺通一〜八丁目・磯上通一〜八丁目にあった多くの倉庫のうち、新港地区の鉄筋コンクリート建多階倉庫を除き、木造煉瓦建の全倉庫がほとんどで全焼した。被災倉庫は民営倉庫が多

く、洪沢倉庫の一〇〇%、森本倉庫の八〇%を筆頭に大被害を受け、莫大な在庫物資を焼失、上屋および倉庫（公・私営とも）一九〇棟におよんだ。これに関し神戸海運局・日本倉庫会社の調査による港湾施設被害坪数および保管貨物の被害価格等は第20・21表のとおりである。

**教育施設** 被害は特にはなほだしく、校舎が好目標となり、軍事施設と誤認されて爆撃されたものが多く、終戦時における被害状況は、専門学校一、中等学校一八校中全焼四、国民学校七八校中全焼一三、半焼二四校、幼稚園八園中全焼四、盲学校一、青年学校一六校中全焼一。

東部五カ町村における教育施設の被害は、専門学校三、中等学校二、国民学校六、幼稚園四、青年学校一であった。

**神戸中央卸売市場** 三月一七日の大空襲で焼夷弾の直撃を受け、三階施設の大部分と二階冷蔵庫の線以北の部分を除いてほとんど灰燼に帰した。

翌一八日は汽車も不通で、市場への入荷はほとんどなく、一九日ようやく少量の入荷を見たのであった。

**道路** 神戸の道路被害は大きかった。道路の被害は道路そのものが爆撃の直接目標ではなく流れ弾によって生じた被害であったが、五大都市中神戸市の道路被害は、面積では五大市中東京都について大きく、被害額では五大都市中のトップであった。（第22表参照）

この神戸市の道路被害を累全体から見ると面積では八九・二%、価額では四九・三%にあたる。

**電気** 戦災が広範圏にわたり、資材・労力の関係で戦力増強に直接関係のある重要工場の復旧を急ぎ、

一般家庭の復旧工事は非常に遅れた。

配電施設では、変電所四カ所、電柱一万二、一〇〇本、

電線二、七四〇キロメートル、変圧器三、七〇〇台に被害をうけた。

戦災後昭和二〇年一二月までに復旧した点燈戸数および燈数を戦災前にくらべると、戦災前の点燈戸数二〇万四、〇〇一戸に対し、終戦直後は七万〇、九九六戸、燈数は戦災前一四九万三、一四五燈に対し戦災後五三万九、二五九燈で、しばらくランプ・ろうそく時代を再現した。

ガス 昭和二〇年一二月の復旧数を、戦前の数字に比較すると、旧市内戦災前の需要戸数一八万戸に対し、戦災後は五万二千戸、戦災前一カ月の消費量は四五〇万立方メートルであったが、戦災で一〇〇万立方メートルと大きく減った。

電話 昭和二〇年二月末日現在の神戸市の電話加入者数は、三万八、三〇〇であったが、終戦前七月末日現在の設備状況は一、八三〇であった。焼失した電話局は神戸中央電話局市外局・兵庫局・苅合局・三宮局であった。

第22表 五大都市道路被害

| 区 分  | 被 害 面 積          |                      | 被 害 額       |                     |
|------|------------------|----------------------|-------------|---------------------|
|      | 被害面積<br>(平方メートル) | 被害総面積に對する<br>百分比 (%) | 被害額<br>(千円) | 被害総額に對する<br>百分比 (%) |
| 東京都  | 1,342,723        | 29.3                 | 50,649      | 20.8                |
| 大阪市  | 65,689           | 1.4                  | 1,714       | 0.7                 |
| 名古屋市 | 117,370          | 2.6                  | 6,332       | 2.6                 |
| 神戸市  | 456,200          | 10.0                 | 66,562      | 27.3                |
| 横浜市  | 41,000           | 0.9                  | 1,233       | 0.5                 |
| 小 計  | 2,022,982        | 45.2                 | 126,490     | 51.9                |
| その他  | 2,556,055        | 55.8                 | 117,188     | 48.1                |
| 全 国  | 4,579,037        | 100.0                | 243,678     | 100.0               |

資料：我國海運の戦争被害、経済安定本部発表

3 戦災をうけた主な建物

戦災により全部または一部が焼失・破壊した市内の主な施設別公私建物は第23表のとおりである。

主な官公衙・公共建物 戦災により全部または

一部を焼失、破壊された主な公私の建物や施設は兵庫県庁・神戸地方裁判所・各税務署・市内全区役所・聯隊区司令部・消防署・御影署ほか二五、住吉村

役場・神戸中央郵便局ほか市内局・神戸中央電話局

市外局・各電話局・海洋气象台・鉄道省鷹取工場・

神戸税関輸出事務所・港湾施設・日倉の各倉庫・市

立図書館・同上筒井分館、中央卸売市場・各学校

主な工場 川崎重工工業艦船工場・同製鋸工

場・川崎車輛・川崎航空神戸金属工場・三菱重工

業神戸造船所・日本発動機・鐘淵実業・台湾製糖・神戸製鋼所・東京芝浦電気神戸鍛鋼所・中央ゴム(旧ダ  
ンロップ)・内外ゴム・川崎電機・増田製粉・川西航空機甲南製作所・日東航空・日本石綿盤ほか九二三

第23表 施設別被害程度別の建物数

| 種類                    | 総数      |     | 無被害    |    | 被害を受けたが<br>使用可能のもの |    | 被害により使用<br>不可能のもの |    |
|-----------------------|---------|-----|--------|----|--------------------|----|-------------------|----|
|                       | 実数      | %   | 実数     | %  | 実数                 | %  | 実数                | %  |
| 総数                    | 232,185 | 100 | 70,402 | 32 | 1,914              | 1  | 159,869           | 67 |
| 商業施設                  | 53,000  | 100 | 19,900 | 37 | 960                | 2  | 32,140            | 61 |
| 工業施設                  | 1,758   | 100 | 151    | 9  | 89                 | 5  | 1,518             | 86 |
| 住宅施設                  | 176,000 | 100 | 49,800 | 28 | 750                | 1  | 125,450           | 71 |
| 文化施設                  | 189     | 100 | 92     | 49 | 16                 | 8  | 81                | 43 |
| 官署<br>官公署<br>官署<br>官署 | 234     | 100 | 76     | 32 | 34                 | 15 | 124               | 53 |
| 神社<br>社<br>社<br>社     | 364     | 100 | 193    | 53 | —                  | —  | 171               | 47 |
| その他<br>の物             | 640     | 100 | 190    | 30 | 65                 | 10 | 385               | 60 |

神戸市空襲建物被害状況・神戸新聞記事から作成

その他 銀行・会社・商店・市場・病院など約一千。武庫離宮・神社(生田神社・湊川神社・長田神社・神戸護国神社ほか二〇社)・仏閣・教会その他

灘の酒造所も罹災 罹災した灘の銘酒の醸造元の主なもの。菊正宗・大黒正宗・世界長・泉正宗・桜正宗・松竹梅・福寿・戦力(のち千緑)・金正宗・都菊・白鶴・福徳長・滝鯉・金露・金鶴正宗・山屋・金釜など。

参 考 資 料

神戸市空襲被害状況(神戸市)

新三菱重工神戸造船所防衛本部記録

兵庫県戦災都市復興状況調査兵庫県商工経済会

東京戦災誌

東京都

大阪戦災誌

大阪市

神戸市における空襲防護と関連事項に亘る

現地報告

米田戦略爆撃調査閉報告

戦災復興誌(第五・一〇卷)

終戦史録

建設省 外務省

終戦記録

朝日新聞社

我国経済の戦争被害

アメリカ合衆国戦略爆撃調査閉編

陸海軍管理工場における徴用死亡者関係書類

兵庫県民生部世話係

中部軍防衛部隊関係編成表(二部) 防召部隊ニ関スル参考綴

兵庫県公史 第三冊第三卷

内閣制度七十年史

内閣官房

議会議制度七十年史

日本外交百年小史

大戦外交の手記 時代の一面

戦後経済史

経済企画庁戦後経済史編纂室

太平洋戦争終結編

日本外交学会 種村 佐孝

外務省監修 東郷 茂徳



第八章 戦 災

- 太平洋海戦史
- 戦 災 録
- 実録太平洋戦争(第七巻)
- 連 合 艦 隊
- 太平洋戦争(上下)
- 神戸商船大学概要
- 海技専門学院創立十六年史
- わが母校誕生のころ
- 廃墟の中から
- 戦後風俗史
- 三井倉庫五十年史
- 三井倉庫七十五年史
- 住友倉庫六十年史
- 回顧八箇年(日本倉庫業史の一齣)
- 神鋼五十年史
- 川崎重工業株式会社史
- 新三菱神戸造船所五十年史
- 日本毛織六十年史
- 神戸商工会議所六十年史
- 神戸商工会議所所報
- 第二十四回日本統計年鑑
- 兵庫県統計書 昭和二十五年度
- 昭和産業史 第三巻
- 高木 惣吉
- 宇垣 纏
- 伊藤 正徳
- 草鹿竜之介
- ロバート・シーヤロッド
- 神戸商船大学
- 海技専門学院
- 中村 和成
- 鶴見俊輔等
- 戸川猪佐武
- 三井倉庫株式会社
- 三井倉庫株式会社
- 住友倉庫株式会社
- 倉庫経済研究会
- 神戸製鋼所
- 川崎重工業株式会社
- 新三菱神戸造船所
- 日本毛織株式会社
- 神戸商工会議所
- 神戸商工会議所
- 神戸商工会議所
- 総理府統計局
- 兵 庫 県
- 東洋経済新報社
- 粉屋の手記
- 空襲日誌(新三菱重工)
- 空襲と終戦直後の記録
- 兵庫県食糧営団回想録
- 兵庫県食糧営団五年史
- 兵庫県食糧営団関係資料(一部)
- 県下の製パン業界を回顧して
- 都政十年史
- 朝日年鑑
- 毎日年鑑
- 時事年鑑
- 旭 影
- 神戸新聞
- 朝日新聞
- 毎日新聞
- 増田 五良
- 巨島 哲吉
- 上田 浅一
- 直木太一郎
- 兵庫県食糧営団
- 直木太一郎
- 東京都
- 昭和八~三二年
- 昭和二二年
- 昭和二二年
- 昭和二二年
- 昭和二二年三月~三二年一月
- 昭和二〇年
- 昭和二〇年
- 昭和二〇年